

【スタッフ紹介】

遠友塾 3年生クラスチーフ
工藤 朱美 (くどう あけみ)

「遠友塾 3年生 24名は、3年5組の教室で勉強しています。今のこの時期、卒業文集もほぼ仕上がり、各教科とも3年生の総まとめに入っています。この教室で学べるのもあとわずかです。向陵中学校の3年生と一緒にもうすぐ卒業します。3年間大変お世話になりました。地域の方、学校関係者に心から感謝いたします。今後とも暖かく見守っていただきたいと思います。」



向陵中学校・地域のみなさま
こんばんは、
えん ゆう じゅく
遠友塾です!

第5号
2012年2月20日

札幌遠友塾自主夜間中学（通称遠友塾）は、ボランティアが運営している自主夜間中学です。1990年から、さまざまな理由で十分に義務教育を受けていない約400人が、励し、支えあいながら学んできました。2009年4月からは、皆様のお陰で長年の夢がかない、札幌市立向陵中学校の教室を借りて授業ができるようになりました。毎週水曜日の夜18時過ぎから授業を行っています。みなさんとお会いできるのを楽しみにしながら、遠友塾の様子を、少しずつ紙面でご紹介させていただきますね！

おめでとうございます！

向陵中 3年 畑中望美さん

「全国中学生人権作文コンテスト」優秀賞受賞！！

向陵中学校3年生の畑中望美さんが、「第31回全国中学生人権作文コンテスト」札幌地方大会で、「優秀賞（北海道新聞社賞）」を受賞されました。おめでとうございます！

タイトルは「世界中に学びと夢を」。

そう、遠友塾と関係があるので、ご紹介させていただきますね。

畑中望美さんのお母様は、遠友塾の賛助会員として、陰ながら遠友塾の活動を支えてくれています。そのお母様が望美さんを誘い、遠友塾の見学にきてくださいました。望美さんがその時に感じた事を含め、作文を書いて「全国中学生人権作文コンテスト」に応募したところ、見事優秀賞を受賞されたのです。

その作文を読んで、私達もとても感動致しました。

とても素敵な作文なので、みなさんにもご紹介させていただきますね。（作文の掲載にあたっては、ご本人、ご家族の承諾を得ています。）

『世界中に学びと夢を』

札幌市立向陵中学校3年 畑中望美

皆さんは、「遠友塾」を知っていますか？私の通っている学校の生徒玄関の右隣りには「遠友塾」と書かれた別の生徒玄関があります。毎週水曜日、夕方になると、私より遥かに年上の大勢の生徒が楽しそうに校門をくぐって来ます。私は何度か「こんばんわ。」と挨拶をしたことがあります。（裏へ続く）

「遠友塾」とは、ボランティアの方々で支えられている自主夜間中学のことです。

2009年4月から、向陵中学校で授業を行っています。生徒の年代は、十代から八十代までと幅広く、戦争、貧困、病気などの為に学校に通えなかった人・いじめや差別などの為学校に通えなかった人・就学免除で学校に行ったことがなかった車椅子の人など、さまざまな理由でたくさんの方々、遠友塾に通っています。

遠友塾は、教育を受けることができなかった人達が、学びの輪の中で、自己を取り戻し夢や希望を叶えるためにあります。

私は今、中学3年生。いわゆる受験生です。毎日周りから、勉強！勉強！と言われ、何の為に勉強しないといけないのかと、目的を見失っていました。そんな時、母から遠友塾と一緒に見学に行こうと誘われました。母は遠友塾の賛助会員になっており、一度見学に行ったことがあったのです。

はっきり言って、私は全く気がのりませんでした。行きたくないと思っていました。しかし母から、「見学の予約をしているから、今日は行くからね。」と言われ、渋々母について行きました。

夜の教室は、昼とは別世界でした。

遠友塾の方々皆、目を輝かせ、とても楽しそうに勉強していました。もちろん、居眠りやムダ話をしている人など、一人もいません。本当にすべての方々が一生涯懸命勉強していました。

私は自分がはずかしくなりました。これが本当の学校のあるべき姿なのだと教えられました。子どもの頃、教育を受ける権利を奪われ、読み書きができないため、辛い思いをされ、ようやく遠友塾にたどり着いた方々が大勢おられます。そして、ずっとしたかった勉強ができて、今が生きてきた中で一番幸せだとおっしゃっています。学ぶことで、自分に目的を持って、前向きに人生を歩まれています。

学ぶことで、夢や希望や目標を持つことができたのです。

「学校に行きたくない。」とか、「しょうがなく行っている。」などと言えること自体が贅沢なんじゃないだろうか、学校に通えること勉強できる環境に居ることに深く感謝しなければいけないのだと思いました。

そして、同じ校舎で学び、年の離れた素晴らしい学友がいることを誇りに思います。

遠友塾の中にも、戦争によって、教育を受ける権利を奪われた方々がたくさんおられます。戦争は、多くのものを奪います。人の命、幸せな人生、そしていろいろな人権までも…。(次ページへ続く)

私の祖父も小学生の時に、戦争で家族を失ってしまいました。私は小学校を卒業する時に初めて祖父から手紙をもらいました。

その手紙には祖父の過去の生い立ちについて書いてありました。

『ジジは戦争で親を失くし、親戚の家に預けられ、あの頃は両親の居ない事に対し強い憤りの念にかられていました。その点、望美は両親のもとでジジよりもすべての面で恵まれて、自由に勉強できる環境にいるのです。これからの自分の人生に目標を持ち、大いに努力して下さい。』

祖父からもう手紙をもらうことはないでしょう。祖父は2年前から認知症になり、たくさんのことを忘れてしまっています。でも、デイケアに行っ、自ら進んで漢字の練習を毎日しているそうです。たくさんのことを忘れてしまった今でも、学びたい、勉強したいという気持ちは忘れていないのです。

人間にとって、学ぶということは、「生きる証」なのだと思います。祖父は病に侵されながらも、私たちに学びの大切さを教え続けてくれているように思います。

世界中には、戦争・貧困・自然災害などにより十分に教育を受けられない子ども達がたくさんいます。教育を受ける権利を奪われることは、未来への夢を持たず、将来への可能性を摘み取られることでもあるのです。子どもの人権として、学ぶことはとても大切なことだと思います。私の学校では「ダルニー奨学金」という活動も行っています。ラオス、タイ、カンボジアの子ども達の進学を支援するもので、今季も何人もの子ども達が学校に通えるようになりました。

私は、世界中の子ども達が、そして次世代の子ども達が安心して学べ、夢をチャンスが与えられる社会をつくっていく努力をしていきたいです。

この作文を読んだ 本郷新記念 札幌彫刻美術館館長 佐藤 信 様（2代前向陵中学校校長）より以下の感想を頂きました。

「作文を読ませていただきました。胸が熱くなり…、初めて授業を見学した時のあの感動を思い出してしまいました。遠友塾とのかかわりを通して、学ぶ喜びや大切さを感じてもらえれば…という願いがこうして受け継がれていることを実感し、感無量です。」

色々な人の思いに支えられている事を改めて感じました。ありがとうございます。

望美さん、また遊びにいらしてくださいね。みなさまも。お待ちしております！

「クラス発表・忘年会」が行われました♡

2011年12月21日(水)、教育文化会館で、遠友塾の年末恒例行事「クラス発表・忘年会」がおこなわれました。

各クラス毎に発表を行うため、みんなこの時期が近づくと、発表の内容を考え、少ない回数ですが、一生懸命練習をします。遠友塾の行事の中では、唯一自分達の練習の成果を発表する場となりますので、気合いの入り方も格別です。

今年も、例年通り、大変盛り上がりました！



▲じっくり「赤ずきんちゃん 2011 by JKB」



▲2年「世界に一つだけの自分」



▼1年「踊るぶどう達の夢」



▲3年「英語劇 The Big Turnip」

★ 参加した受講生の感想 ★

『クラス発表・忘年会』

3年受講生 横田 真由美

毎年、年末の発表会は、私が遠友塾で一番楽しみしているイベントです。三年生は英語劇に挑戦、英語教科が大好きだったので、短期間の劇練習でしたが、みごと大成功だったと思います。カブ役の山岡さん大活躍、忘れられない思い出の1ページになりました。

全クラス素晴らしい発表でした。遠友塾全員の方々に感謝致します。ありがとうございました。

3年生のみなさん、お世話になりました！

3年生のみなさんは、中学校生活もあと少しとなりましたね。それぞれ、進学・就職など、ご自分の道を決められ、新しい一步を踏み出そうとされていると思います。

目の前に色々な困難があっても、何かを始めようと思える時がきたら、いつでもそこが

スタート地点になると思いますので、どうぞそれぞれ、自分らしい道を行ってくださいね。ずっと応援しています。

3年間、遠友塾を支えて頂いて、本当にありがとうございました！

■ 「こんな事を聞いてみたい」など質問・ご意見がございましたら、いつでもお気軽に下記迄ご連絡下さい。

● 電話：飯塚英明 080-1874-0590 ● E-Mail：enyu_info@enyujuku.com

■ 受講生、スタッフ及び賛助会員の方々にお配りしている「遠友だより」も、時折り学校に掲示して頂いております。機会がありましたら、あわせてご覧ください。

【札幌遠友塾自主夜間中学 広報係】